

令和 5 年 6 月 6 日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00343

研究課題名(和文) 帝国日本の書物流通ネットワークと知の文化基盤に関する調査および総合的研究

研究課題名(英文) A comprehensive research on the book distribution network and cultural infrastructure of knowledge in Imperial Japan

研究代表者

日比 嘉高(Hibi, Yoshitaka)

名古屋大学・人文学研究科・教授

研究者番号：80334019

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、明治期から第二次世界大戦以前における日本語の書物流通を、外地における小売書店の活動と、内地外地を結んだ取次書店の足跡を追いかけながら、これら書店の歴史の実態、ネットワークの機能、そしてそれらが日本語圏における文化生成において果たした役割を調査・考究したものである。研究は地域ごとに進め、台湾、樺太、満洲について2019年度に、外地書店の引揚げと北南米について2020年度に、上海の内山書店および戦時下における内地外地の書店の転廃業、また南洋について2021年度に、外地書店の引揚げと、戦後の内地における書店の叢生について2022年度に考察と報告を行っている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義、社会的意義は以下のように示すことができる。一つには物への着目と実証的な掘り起こしである。本研究は物としての書物とそれを販売した小売および取次業者に注目し、それらの足跡を実証的に掘り起こした。二つには、ネットワークへの着目である。書物を運んだ物流に関わる、人と組織の役割、歴史的展開、空間的配置、法的規制について実証的に調査し、かつ物流に関わる現代的な理論的考察を参照することにより、物と人が織りなす文化の編み目のダイナミズムを提示した。三つには、書物流通の観点から国境を越えた書物ネットワークの広域の見取り図の提示を行ったことである。

研究成果の概要(英文)：This study examines the distribution of Japanese-language books from the Meiji period to the after-World War II era, chasing the activities of retail bookstores in the Japanese overseas territories and the footsteps of the distribution-agency bookstores that linked the inner and outer territories of the Japanese empire.

The research was conducted on a regional basis, with analysis and papers on Taiwan, Sakhalin, and Manchuria in FY2019, on the repatriation of foreign bookstores and North and South America in FY2020, on Uchiyama bookstore in Shanghai, on closure of bookstores in the interior and exterior territories, and on the South Seas Mandate in FY2021, and on the repatriation of foreign bookstores and on the postwar foundations of bookstores in post-war Japan in FY2022.

研究分野：近現代日本文学・文化

キーワード：外地 書店 取次 書物流通 朝鮮 満洲 台湾 小売書店

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究はこれまでの申請者の研究「とりわけ前々回・前回に取得した科研費「戦前における外地／内地を結ぶ書物流通」および「書物取次ネットワークと小売書店に関する研究 旧満洲・朝鮮半島・樺太等を中心に」の成果を継承しながら、次の研究段階へと進めようとするものであった。

これまでの研究計画においては、まず台湾の新高堂書店、朝鮮半島の日韓書房および大阪屋号書店京城支店の流通網形成の調査分析を行ってきた。その後、内地と外地を結んだ取次業者の活動を追跡した。外地向けの最大手取次であった大阪屋号書店に着目し、同時にその他の大手取次東京堂、北隆館、三省堂、関西系、九州系業者についても調査を行い、戦前期における外地向け書籍雑誌流通の大枠を明らかにした。また、1930年代から40年代にかけての統制経済が、いかに書籍の流通と小売に影響を及ぼしたのかという観点から、書籍配給会社および統制組合についても調査分析を行っていた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、書物とその流通に着目し、その物質としての側面および物・人・情報のネットワークのあり方を分析することにより、人の知的活動とそれを支えた物質的基盤との関係を問い直すものである。具体的には、第二次世界大戦以前の大日本帝国とその周辺における書物と、それを運び販売し人々と結びつけたネットワーク、その時期の文芸・学術・出版を中心とした文化活動の考察がここでの問題である。

その主眼は、物質(書物)ネットワーク(書物流通・人間関係・同業者組合など)、文化(文芸・出版・図書館など)の3つが、どのように絡み合い、それらの関係性が歴史的にいかにか推移したのかを考えることにある。具体的には、内地と樺太、旧満洲、中国、朝鮮半島、台湾、南洋、ハワイ、北南米を横断するグローバルな書物流通の歴史と機能についての実証的な全体像を示し、かつ理論的な省察を提示すること、第二次世界大戦以前における中国と南洋諸島とハワイにおける日本語書店、および丸善など欧米系書籍を扱った書店の活動を実証的に掘り起こすことである。また新型コロナウイルスの蔓延により海外調査が行えず十分に展開できなかったが、戦前期に外地へ運ばれた日本語書物およびその目録がどの程度デジタル化されているかの基礎調査を試みることも目標としていた。

3. 研究の方法

今研究課題では、以下の方法で分析を進めた。

(1) 内地と樺太、旧満洲、中国、朝鮮半島、台湾、南洋、ハワイ、北南米を横断するグローバルな書物流通の歴史と機能について実証的かつ理論的に考察する。すでに遂行してきた研究プロジェクトによって、台湾、朝鮮半島、樺太、旧満洲と内地とを結ぶ書物流通に関しては、かなりのことがわかってきているが、今プロジェクトではこれに加え、で詳述するように、南洋や中国大陸、南米などに力を注いだ。またそれらを歴史的、空間的、理論的に統合していく分析作業を行った。

(2) 第二次世界大戦以前における中国と南洋諸島とハワイにおける日本語書店、および丸善など欧米系書籍を扱った書店活動を実証的に調査する。文献資料の収集と分析による考察、海外の研究者との情報交換などを織り交ぜて遂行した。現地調査に関しては、新型コロナウイルスの影響で、2023年3月のフランス国立図書館での調査以外に行うことができなかった。対象となる文献資料としては、書店の同業者組織である書籍雑誌商組合の組合関連資料、書店関係者および出版関係者の社史・回想、取次業者の社史・回想、業界関係者の座談会をもとにした回顧記事、書店の利用者による記事、新聞・雑誌記事などが、主たる資料となった。

既述のように、(3)の課題である、戦前期に外地へ運ばれた日本語書物およびその目録がどの程度デジタル化されているかの基礎調査は、行うことができなかった。今後の課題としたい。

4. 研究成果

研究成果については、年度ごとにわけて成果を記述する。

2019年度においては、編著として戦前の台北に関する日比編『台湾・新高堂書店村崎長昶事跡と回想録』(金沢文圃閣)を刊行した。論文としては樺太と大連について考えた「外地のランドスケープ 人と環境の重奏を聴く」(『現代詩手帖』第62巻8号)があり、また満洲の書店の歴史を追った「満洲」の本屋たち 満洲書籍配給株式会社成立まで」(『Intelligence』第20号)を、さらに戦時下の書物の流通を考えた「統制経済と書物流通 帝国の国策書籍配給会社」(『名古屋大学人文学研究論集』第3号)を発表した。またミニシンポジウムにおける関連した報告として「物と知をどうつなぐか」(『立教大学日本文学』122号)がある。学会

報告としては書物流通の物質性を移民文学に触れながら論じた "Japanophone Literatures and Books: materiality, distribution networks and immigrant writers." (Japanese Diaspora to the Americas: Literature, History and Identity, Yale University, 2019年5月3日) を行い、またアジア太平洋戦争期の書店および関連組合について調査した「戦時下における小売書店 企業整備と統制組合」(東アジアと同時代日本語文学フォーラム 第7回)の報告もあった。

2020年度においては、外地書店の引揚げについての論考「外地書店を追いかける(13) 本屋の引揚げ 台北、新京、京城、ジャカルタ」を発表した。これは、台湾からの引揚げとして東都書籍、丸善を、満洲からの引揚げとして三省堂と丸善ほかを、朝鮮およびジャカルタからの引揚げとして金城堂、研文社、丸善についてまとめたものである。また北米南米の書店についての英語での論文を執筆した。これは北米の書店についてのこれまでの蓄積を踏まえながら、サンパウロとブエノスアイレスの書店について、あらたに調査したものである。北南米への本の輸出がどのような歴史をたどったのかをまとめ、遠藤書店と『文化』について論じ、さらにアルゼンチンにおける日本書店の歴史を概観した。最後に、本の物質性とそれが移民文化の形成にどのように振る舞ったのかを論じた。中国大陸の書店についても、上海と北京を中心に資料分析を行った。情報の多い内山書店関係の資料を収集し、上海と日本人社会についての論考及び資料にも目を配った。

2021年度の研究としては、(1)外地書店の引揚げについての論考「外地書店を追いかける(14)

本屋の引揚げ 上海・内山書店と内山完造」を公刊した。これは、上海の内山書店およびその経営者である内山完造の戦中および引揚げ、そして戦後について調査考察したものである。また内地外地をまたいだ自身の書物研究の概要とその価値を説いた英語の論文の発表を行った。これは米国の日本文学研究の学会の予稿集 PAJLS (Proceedings of the Association for Japanese Literary Studies)に発表したものである。さらに、戦時下における内地外地の書店の転廃業について論考「戦時下における内地外地の小売書店 企業整備、共同仕入体、読者隣組」をまとめ、公刊した。統制経済、戦時経済下での企業整備が主たる対象となった。学会発表として、「アジア太平洋戦争下における南洋の日本書店と書物流通」を行った。これは南洋地域の書店の展開を調査報告したものである。

2022年度においては、アジア太平洋戦争後における外地書店の引揚げと、戦後の内地における古書店の叢生について調査分析を行った。古書店の関連資料を用いて、東京のようす、九州のようすを簡単に素描し、外地からの引揚げと戦後の開店について大連の例、新京の例を検討した。また作家埴原一穂の短編「ある引揚者の生活」を取り上げ、戦後に古書店を開いた引揚げ者の表象を分析した。戦後の新刊書店についても目を向け、北海道北見市の例、名古屋市の例、山鹿

市の例の考察を行った。以上の考察は、「外地書店を追いかける(15・終) そしてまた本屋を開いた」と題した論考にまとめて発表した。また南米(一部で北米を含む)の移民地の日本語書店についての論考が公刊された。これは "Chasing the Transnational Flow of Books and Magazines: Materials, Knowledge, and Network" と題した英文の論考で、_The Japanese Empire and Latin America_という論文集に収録されたものである。

2023年3月にはパリの INALCO において「デジタル・ヒューマニティーズと日本近代文学研究

書物流通研究から出発して」と題した研究報告を行い、書物流通研究の意義を整理しつつ、近代文学研究およびデジタル・ヒューマニティーズとの接続を論じた。

科研費の研究期間は終わったが、現在上記のすべてをまとめた単著の原稿を書き進めている。出来次第公刊する予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 日比嘉高	4. 巻 47
2. 論文標題 戦時下における内地外地の小売書店 企業整備、共同仕入体、読者隣組	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 金沢大学国語国文	6. 最初と最後の頁 47-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24517/00065956	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Yoshitaka HIBI	4. 巻 20
2. 論文標題 Inheriting Books: Overseas Bookstores, Distributors, and Their Networks	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 PAJLS (Proceedings of the Association for Japanese Literary Studies)	6. 最初と最後の頁 14-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 日比嘉高	4. 巻 38
2. 論文標題 外地書店を追いかける(14) 本屋の引揚げ 上海・内山書店と内山完造	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『文献継承』金沢文圃閣	6. 最初と最後の頁 1-5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 日比嘉高	4. 巻 36
2. 論文標題 外地書店を追いかける(13) 本屋の引揚げ 台北、新京、京城、ジャカルタ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『文献継承』金沢文圃閣	6. 最初と最後の頁 1-5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 日比嘉高	4. 巻 第62巻8号
2. 論文標題 外地のランドスケープ 人と環境の重奏を聴く	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 現代詩手帖	6. 最初と最後の頁 42-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 日比嘉高	4. 巻 20
2. 論文標題 「満洲」の本屋たち 満洲書籍配給株式会社成立まで	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Intelligence	6. 最初と最後の頁 102-117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 日比嘉高	4. 巻 3
2. 論文標題 統制経済と書物流通 帝国の国策書籍配給会社	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 名古屋大学人文学研究論集	6. 最初と最後の頁 335-350
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 日比嘉高	4. 巻 40
2. 論文標題 外地書店を追いかける(15・終) そしてまた本屋を開いた	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『文献継承』金沢文圃閣	6. 最初と最後の頁 13-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 日比嘉高
2. 発表標題 アジア太平洋戦争下における南洋の日本書店と書物流通
3. 学会等名 東アジアと同時代日本語文学フォーラム 第9回（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yoshitaka Hibi
2. 発表標題 Japanophone Literatures and Books: materiality, distribution networks and immigrant writers
3. 学会等名 Japanese Diaspora to the Americas: Literature, History and Identity (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 日比嘉高
2. 発表標題 戦時下における小売書店 企業整備と統制組合
3. 学会等名 東アジアと同時代日本語文学フォーラム（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 日比嘉高
2. 発表標題 デジタル・ヒューマニティーズと日本近代文学研究 書物流通研究から出発して
3. 学会等名 Actualites de la recherche internationale en litterature moderne japonaise (国際学会)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 日比嘉高	4. 発行年 2020年
2. 出版社 金沢文圃閣	5. 総ページ数 246
3. 書名 台湾・新高堂書店村崎長昶 事跡と回想録	

1. 著者名 Pedro Iacobelli and Sidney Xu Lu, eds.	4. 発行年 2023年
2. 出版社 University of Hawai'i Press	5. 総ページ数 318
3. 書名 The Japanese Empire and Latin America	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------